



業務加工用向きの多収水稻新品種

やまだわら

“Yamadawara”, a High Yield Rice Cultivar Suitable for Food Industry Use

反収750kg以上の高収量が期待でき、関東・東北以西において、炊飯米の粘りが強すぎない特徴を活かした外食・中食産業向けや冷凍米飯等業務用、醸造用掛米等としての利用が期待されます。

「やまだわら」の育成経過

「ミズホチカラ」に由来する極多収の「泉348」と「関東192号」の交雑後代より育成した品種で、2011年に品種登録出願しました。



朝の光

やまだわら

「やまだわら」の特性

- 育成地における玄米収量は、「朝の光」に対して早植標準肥および多肥で30%程度多収です。また、関東・北陸以西地域の奨励品種決定調査試験でも高収量が得られており、多肥栽培で反収750kg以上の高収量が期待されます。
- 玄米の外観品質は、「朝の光」より劣る“中中”です。炊飯米の食味は、粘りが弱く、「コシヒカリ」より劣り、「朝の光」、「日本晴」並の“中上”です。

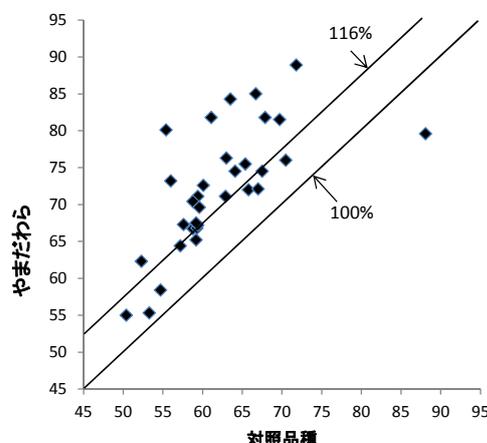
品種名	出穂期 (月.日)	玄米 収量 (kg/a)	比較 比率 (%)	千粒重 (g)	玄米 品質 (1-9)
<早植・標準施肥>					
やまだわら	8.8	71.8	133	22.8	5.6
朝の光	8.7	54.8	(100)	21.7	4.6
<早植・多肥>					
やまだわら	8.9	83.8	128	22.1	5.3
朝の光	8.9	65.7	(100)	21.4	4.3

注) 玄米品質は、1(上上)から9(下下)の9段階評価。

「やまだわら」は除草剤成分ベンゾピシクロン、メソトリオンおよびテフリルトリオンに感受性のため、使用する除草剤には注意が必要です。

栽培適地

- 関東・北陸以西に適しています。なお、縞葉枯病に罹病性のため、縞葉枯病常発地には適しません。



奨励品種決定調査試験における「あきだわら」と対照品種との玄米収量(kg/a)の比較

農研機構 作物研究所 稲研究領域

問い合わせ先: 企画管理室 tel:029-838-8260

E-mail: www-nics@naro.affrc.go.jp <http://www.naro.affrc.go.jp/nics/index.html>